



作文2部

農林水産大臣賞

のうりん すい さん だいじんしょう

ごはん一つぶの重み

山形県米沢市立北部小学校五年

田村 理音

「また、ごはんつぶ残してる。」

私がおはんを食へ終わってごはん茶わんを運ぼうとすると、よく父に言われます。

「残してないよ。」

「ここにあるでしょ。」

そう言われて仕方なく私は食べます。確かに一つぶか二つぶ残っているのです。私は全部食べているつもりなのに、なぜかお茶わんの見えないところについているのです。残してないのになぜいつも注意されるんだろう。私の中で疑問が残ります。

私は今年五年生なので、自然の家で宿泊体験学習がありました。ずっと楽しみにしていたのが、友達と泊まることと野外すいはんでカレーとごはんを作ることでした。でも、新型コロナウイルスが感染拡大したために、お米は自分達でたけなくなり、カレーはレトルトカレーをお湯で温めるだけになってしまいました。学校の家庭科の授業でも調理できず、みんなと調理する機会がなかったのでもやってみたかったです。だからできなくなつて残念でした。あまりにがっかりしていたので、父が家でお米をたけないかと調べてくれました。空き缶を使ってたく方法で、か

まども空き缶で作ってくれました。まず、お米をときました。初めてだったので、父に教えてもらいながらときました。ボールに入れたお米を外に一つぶも落とさないように慎重にとぎました。それなのに落としてしまいました。大切なお米なものもつたいなと思います。次に空き缶で作ったかまどで火をおこします。空き缶にお米を入れてかまどにのせます。火が点いてからがすぐ大変でした。燃料になる牛乳パックを次々と入れて、うちわで火を大きくしていきます。暑い中、休むひまもないのです。途中で火が消えてしまつて何回もやり直しました。上にのせたアルミホイルがふくらむとごはんがたきあがった合図です。まだかまだかとわくわくして待つていました。汗だくだくで食べたごはんは、何も具が入っていないくて、味も付いていないのに、すごくすごくおいしかったです。ごはんって、本当はほんのりあまいんだと分かりました。一つぶも残さず食べられました。

「今日は、きれいに食べられたね。」

父に言われて、ふと思ひ出しました。ごはんは二十五つぶでグラムだということを。米沢市の食べ残しを減らす取り組みのために調べました。ごはん一つぶでは軽いけれど、本当は重い一つぶです。私達と同じように、農家の方が種もみから育ててくれた大事な命です。私が時々残している一つぶも本当は重い大切な一つぶだったと、自分でたいたごはんを食べて気づきました。私は食べたつもりになっていたけれど、よく見ていなかったのです。だから、残してしまつていたので。これからは、お米の大切な命を無だにしないように、一つぶも残さず食べたいです。